

夏休みと幼児



山下俊郎

夏になると、幼稚園はお休みになる。この夏休みについては、先生と幼児の両方に問題がある。先生にとってはこの夏休みをどのように過ごすか、研修を中心とした保育者としての生活の充実

を計ることについての生活設計が必要である。そして、もう一方では、お休みになって、家庭に、あるいは家庭を中心とした生活

をすることになる幼児の生活指導の問題がある。この後者の問題については、夏休みになる前に先生の方で、親とくに母親に対して注文をつけ、指導することが絶対に必要であると思う。ここではこの後者の問題、すなわち母親指導の内容について述べてみたい。

1 幼児に対する夏休みの意義

夏休みというのは、一口に言っている意味での解放の生活だと

いうていいであろう。この解放ということは、幼稚園という生活のわくからの解放なのである。この解放には、マイナスの面、消極的な面と、プラスの面、積極的な面との両面がある。そこで、消極的な面については、そこから起こってくるマイナスを無くするようにつとめるといふ母親の心構えのもとにいろいろ生活面に対する注意が必要である。そしてさらに、積極的な面については、そこに現われてくるプラスの面を幼児の成長の上に十分に役立つようにするということが大切である。

このような夏休みの消極面への注意と積極面への計画ということとは、夏休みが目の前に迫って来てから考えるのではけっして十分な効果を期待することができない。そこで、先生の方から夏休

みに入る前、少なくとも三週間か一月前からこのことを具体的に考えて、母親に対する働きかけを、何らかの形で行うことが望ましいと思う。そのきわめて荒いすじを簡単に述べることにしよう。

2 夏休みの消極面への対策

さきに夏休みというのは幼児にとって解放の生活であり、幼稚園という生活のわくから解放されることであると述べた。ところがこの解放ということにマイナスの面が出てくることにまず注意したい。

幼児が毎日幼稚園に通園している時は、幼稚園は何ととっても幼児の生活の大きな柱であるといっている。一日二十四時間の生活からみれば時間的には、せいぜい三時間か四時間であるから、ほんの一部分に過ぎないともいえよう。しかしその短かい時間が幼児の生活の中に占める位置はまことに大切な意義を持っている。言ってみればそれは一日中の生活の中心を占める柱であるといっているのである。幼稚園の生活を中心にして、そのまわりには幼児の家庭での、あるいは近隣での生活というものが回転していると考えられるのである。このような生活の中心を占める柱が夏休みになると、ポカッとぬけてしまう。そこにマイナスの面がいろいろと出てくるわけである。このようなマイナスの面の最も目

につくのは生活時間の面である。曜日によって多少の違いはあるが、九時ごろには家を出て、昼食のない日はお昼ごろ、昼食のある日は一時半から二時ごろには家へ帰る。この時間は園によってもちがうであろうが、とにかくおおよそまわっている。そしてその園生活を中心にして生活が回転しているのであるから、時間から解放されるとつい不規則になりやすい。だから朝起きる時間、食事の時間、おやつの時間、入浴の時間、就寝の時間といういくつかの柱は、やはりキチンと立てて、それを守るようにすることが、親も子も必要であり、注意すべきことである。つまり、時間的規律というものが、ともするとくずれやすいので、これを守ることがまず何よりも大切な注意である。

それから次に大切なことは、幼児が園生活をしている間に、身につけたいろいろなものがあり、いろいろな事がらがある。これを失わせないようにすることである。幼稚園での幼児の生活は、一口に言えば、幼児が先に立ってする生活である。自発性にもとづいた生活とはこのことである。ことにこの四月に入園した幼児は、いまままで母親にしろもらい、母親に頼ってしていたことを、自分が先に立ってやるような生活を新しく身につけたはずである。このことは、ことに過保護になり勝ちなこの頃の幼児にとつて、何にもまして貴重な経験であり、収穫であるはずである。身

のまわりのこと、遊びのいろいろの面、お友だちとのいろいろのやりとり、それらのことを幼稚園の生活の中で新しく身につけた幼児である。新入園児に限らず、前からの在園児も、それぞれ今までの生活の上に新しいものを身につけたはずである。これらのいろいろのことを夏休みの間にみんまなくしてしまふことが、不注意な母親には得てして起こりやすい。園と家庭との連絡がいつも緊密であれば、幼児が幼稚園でどういふことを、どういふふうにして、どのように身につけているかは、ほんとは母親に通じているはずである。しかし、さらに念を入れて、これこれこれだけのことがキチンとできるようにになりましたという連絡が、全体の幼児について、さらに一人一人の幼児について母親になされれば、母親に園生活によって幼児が身につけたものを失わせないように注意することができるし、注意したいものである。

3 夏休みの積極面への対策

今まで述べた消極面の対策によって幼児の生活を園生活のあったときと同じレベルに保つということがなされれば、その上に今度は積極面への対策が考えられなければならない。さきに夏休みは解放の生活であるといった。この解放された空間と時間を積極的に利用して幼児の成長の上にプラスをもたらすようにすることが望ましい。このことについてはいろいろの面が考えられる。

まず、日常の生活的なことについていえば、日ごろはさせていなかった家事のお手伝いのようなこともある。朝夕の新聞を郵便受けから取って来るとか、お花の鉢に必ず定った時間に水をやるといったようなこと……、これらはふだん定めてさせていし、させるべきことであるが、ついこれらが母親の心の中になかったことが多い。一時にあれもこれもと欲ばってはできない結果になってしまふから、できる範囲のことを二、三えらんで日課として課する。きょうだいがあれば分担をきめて幾つかのことをやる。それらのことをたとえば、古くからどの園でも使っている生活カレンダーに毎日丸をかくとか、星形の紙をはるとかという積極的奨励の方法を講じるとなお効果的である。このような生活的なことは、家の生活というものはみんながそれぞれ分に応じていろいろのことを分担することによって楽しく生活できるものだということを、幼児にも認識させるようにする道でもあることを注意したい。自分の好きなことを存分にやるという面があることは当然のことであるが、それに対してこのような面もあつてしかるべきであるということをも母子ともに理解する場が夏休みでありたいと思う。

それから、夏休みは、ふだんはできないことを十分に経験させ、幼児の生活の内容をより豊かにさせたい時であるが、その場

の一つが旅行であろう。近ごろは旅行していると、よく家族みんなで旅行を楽しんでいる状況を、列車や飛行機や船の中で見受ける。昔はなかなか見られなかったことであるが、幼児にとつて何よりもとうとい経験をやる機会の一つが旅行であると思う。都会の生活をしている幼稚園児は、海や山へ行くことによつて、日ごろ接することのできない自然に接することができる。一日中の山の色の变化、お天気によつて変わる空や湖や海や山の模様、清らかな水の流れている川のいろいろの姿といったことから、さらにそれらの所にいる虫、細かく気をつけて見るといろいろの色と姿を持つてゐる草や木、そのほかいろいろの自然の姿に接することは幼児にとつてこの上もないよい経験の機会であり、そこから幼児はいろいろのものをくみ取つて身につけることができる。

また、海や山に行くと日ごろ都会には見ることのできない草花や貝がらやいろいろの虫の類といったものに接することができる。そして、それらのものを集めるということは、幼児の心の中にあるいわゆるしゅう集癖というものの自然の現われとして出て来るものである。このもの集めは、ただやたらに集めるということから始まつて、次には少しずつ整理するということから分類し、系統立てるといふことへと進めば、やがては科学へと進む道への最初の出発だといつていいもので、日ごろできない経験をす

る機会である。海や山やいなかへの旅行の与えてくれる大事な贈り物であるといつていいものである。

旅行はいま述べたような自然への接触ということでのこのように大切な意味をもっているが、人とのふれ合いの中でどうするかというのを身につけさせる機会でもある。いわゆる社会的訓練ということの行わるべきよい機会でもあることを母親たちは認識しなければならぬ。よく列車の中などでむやみやたらにさわいで他人に迷惑をかけているのに、平気でいる母親を見受けるが、母親の心構えがもっとしっかりこのことへと向けられることが必要であろう。

夏休みに、ふだんできない経験をさせるということは、何も旅行に限らない。市や町の中で、博物館に行つてみるとか、日ごろ乗らない路線の電車やバスに乗つてみるとか、お使いのついでに郵便局を見るときか、やおやに行つて、いろいろの野菜を見るときのように、自宅にいてもできることがあることにも注意したい。要は、日ごろできないことをさせて、幼児の心を豊かにしてやる心構えが、夏休みの積極面を生かすことになるのである。